

**一般社団法人 大学英語教育学会 (JACET)**  
**中部支部**  
**2017 年度 講演会・第 2 回支部総会**

2017 年 12 月 9 日(土)

14 時 30 分～17 時 40 分

中京大学 0805 教室

(〒466-8666 愛知県名古屋市中区八事本町 101-2)



## 日 程

### 支部総会（14時30分—15時00分）

支部長挨拶

報告事項

本部報告

審議事項

2018年度事業計画案

2018年度予算案

2018年度人事案

### 講演会（15時15分—17時40分）

開会挨拶            15時15分～15時20分            支部長    村田泰美(名城大学)

講演1                15時20分～16時20分            司会      今井隆夫（愛知教育大学）

「第二言語習得研究への複眼的アプローチ:共通性から多様性へ」  
新多了(名古屋学院大学・准教授)

講演2                16時35分～17時35分            司会      村田泰美(名城大学)

「英語授業における経験の創出と組織化」  
松村昌紀(名城大学・教授)

閉会挨拶            17時35分～17時40分    副支部長    佐藤雄大(名古屋外国語大学)

忘年会                18時00分～                        イタリアン・トマト(中京大学内)

講演会 1

15 時 20 分～16 時 20 分

司会 今井隆夫（愛知教育大学）

## 「第二言語習得研究への複眼的アプローチ：共通性から多様性へ」

新多了（名古屋学院大学・准教授）

### 講演概要

母語習得はほぼ 100% 成功するのに対して、なぜ第二言語の習得は難しいのでしょうか。生まれた直後から習得を開始する母語に対して、私たちが第二言語（主に英語）の学習を開始する時期は様々ですし、学習に費やす時間も、方法や環境も様々です。このように、第二言語習得 (Second Language Acquisition) 研究は多種多様な人たちが経験する複雑な現象を理解し、解決策を提案するという難題を宿命的に背負ってきました。

第二言語習得研究は言語学と心理学から特に大きな影響を受け、認知的アプローチを採用することで第二言語習得の「共通性」について理解を深めてきました。しかし、認知的アプローチに頼った研究だけでは、多様な言語と文化が混じり合う現代のグローバル化社会の中でさらに複雑化した第二言語習得現象を捉えることは困難です。ある特定のアプローチに縛られることなく、様々な分野の知見をつなぎ、「多様性」を尊重する分野超越的な (transdisciplinary) 視点が求められています(例えば, Larsen-Freeman, 2012; Ortega, 2013; The Douglas Fir Group, 2016)。

本講演では第二言語習得の主要な研究テーマの一つであるタスク中心言語教育 (Task-Based Language Teaching) を取り上げ、私自身の研究を紹介しながら、様々な視点から学習者の多様性を捉えようとする研究の重要性について考えていきます。

### 講師紹介

新多了 名古屋学院大学 准教授

上智大学文学部英文学科卒業、英国ウォーリック大学大学院応用言語学研究センター修士課程および博士課程修了 (PhD in Applied Linguistics)。タスク中心言語教育、第二言語動機づけ、複雑系理論の第二言語習得への応用などについて研究している。最近の著書・論文に『はじめての第二言語習得論講義-英語学習への複眼的アプローチ』(大修館書店, 2016), “A multifaceted approach to investigating pre-task planning effects on paired oral test performance” (*Language Testing*, 2014), “Phase transitions in dynamic development of writing fluency from a complex dynamic systems perspective” (*Language Learning*, 2014), “Self-regulation in the evolution of the ideal L2 self: A complex dynamic systems approach to the L2 Motivational Self System”, in Z. Dörnyei et al. (eds.), *Motivational Dynamic in Language Learning* (Bristol, UK: Multilingual Matters, 2015), “Understanding benefits of repetition from a complex dynamic systems perspective: The case of a writing task” in M. Bygate (ed.), *Language Learning through Repetition* (Amsterdam: John Benjamins, in press) などがある。

講演会 2

16 時 35 分～17 時 35 分

司会 村田泰美(名城大学)

### 「英語授業における経験の創出と組織化」

松村昌紀(名城大学・教授)

#### 講演概要

第二言語の指導とは目標言語の発達にとって最善の環境を学習者に提供することだと言える。そのとき、何を根拠にどのような課題を用い、どのように授業を構成していけばよいのだろうか。そうした観点から、近年の言語教育の文脈で「タスク」と呼ばれるコミュニケーション課題の有効性が議論されてきたが、同時にその理解や導入を阻むいくつかの要因も指摘されてきた。研究と実践における関心の乖離に端を発する誤解も生まれている。

以上のような状況をふまえ、タスクに関する基本的な理解のための参照枠として、それらを 6 つのタイプにまとめたうえで、それぞれに固有の特性や運用上変更可能な側面を整理して示す。タスクを活用して授業を計画する際の指針にもふれる。最後に、タスクの導入に対する批判的論点のいくつかを改めて取り上げながら、その受け入れのため、指導者には学習観や第二言語能力観においてどのような発想の転換が求められているのかを考えてみる。

#### 講師紹介

松村昌紀 名城大学 教授

三重県立高等学校教員として勤務の後、愛知県、神奈川県内の大学を経て、現在名城大学理工学部で英語科目を担当；研究領域は第二言語習得、特に言語発達における手がかり(学習可能性)の問題；著書に『英語教育を知る 58 の鍵』(大修館書店, 2009 年)など、翻訳書として『タスクが開く新しい英語教育——英語教師のための実践ハンドブック』(共訳, 開隆堂出版, 2003 年；原著 A Framework for Task-Based Learning by Jane Willis. Longman, 1996 年)。

## 忘年会のご案内

「イタリアン・トマト(中京大学内)」にて、JACET 中部支部忘年会を行います。会費は 4,000 円を予定しております。準備の都合上、参加ご希望の方は 12 月 4 日(月曜日)までに、JACET 中部ホームページよりお申し込みください。情報交換・意見の場として、多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、当日のキャンセルはご容赦ください。

## 事務局からのお知らせ

- ☆ 駐車場はございませんので公共交通機関をご利用下さい。
- ☆ 当日、第 7 回中部支部役員会(12:30~13:45)を行います。役員は 08A 教室にご参集下さい。
- ☆ 春季定例研究会(2018 年 3 月 3 日、南山大学 名古屋キャンパス)の研究発表を募集します(締切 2018 年 1 月 5 日)。詳しくはホームページ(<http://www.jacet-chubu.org/>)をご覧ください。

## 会場アクセス



支部総会・講演会に関するお問い合わせは、JACET 中部支部事務局までお願いします。

支部事務局:名城大学 藤原康弘研究室内

fujiwara@meijo-u.ac.jp